

申 入 書

2014年2月13日

八尾市長 田中 誠太 様

全国水平同盟西郡支部
支部長 岡邨 洋

- ・1月30日、現住住居への仮執行宣言付き明け渡し反動判決を徹底弾劾する!
- ・八尾市は、住宅追い出しの強制執行、年金・預貯金の差押えをするな!

(1) 1月30日の大阪地裁古財英明裁判長による、西郡住民8家族への仮執行宣言付き住宅明け渡し反動判決を絶対に許さない。

住宅家賃を供託して闘っている8家族に対して、現に住んでいる住宅を明け渡して出ていけ。しかも、裁判がまだ続いているのに一審判決に、仮執行宣言まで付けて、今すぐ出ていけとは何事だ。住宅は人間が生きていくために最も基本となるものだ。現住住居に対する仮執行宣言付き明け渡し判決など前代未聞の暴挙だ。しかも、西郡住宅は住民が生きるために運動をして、協力もして国・八尾市に建てさせた住宅だ。なおのこと、明け渡しや強制執行など絶対に認められない。私たちは出ていかないぞ。

さらに判決は、払う筋合いも根拠もない、また、払うことなど到底できない1000万円以上もの金(かね)を払えと言う。

この金額は、家賃供託をやめ闘いをやめさせるための「架空の最高家賃」請求と、八尾市が一方的に「契約解除」して裁判に訴えた後は、裁判を闘っている期間も含め、最高家賃の2倍の額を毎月払えと言う金額だ。さっさと裁判などやめて住宅を明け渡して出ていけという脅しのための架空請求だ。全く払う筋合いのない金だ。これも差し押さえるというのか。命の糧である年金・預貯金の差押えなど、絶対に許さないぞ!

国や八尾市、裁判所は、家を奪い、金も奪い、丸裸にして強制執行で放り出すというのか。8家族に対して死ねと言うのか! 殺す気か! 死んでも構わないと考えているのか! 国や八尾市、裁判所は私たちの怒り、悔しさがどれほど激しいものか分かっているのか。

殺されてたまるか! ウソとだましと脅しの国や八尾市、裁判所など、もういら

ない。私たちは、労働者を殺し、大企業を助ける国や八尾市、裁判所を誰も許さない。

八尾市は、強制執行や差押えなど絶対にやるな。やらせないぞ。

(2) 17年もの不屈の西郡住宅闘争が、更地化の真実を暴き出した。

裁判において、私たちは、『八尾市営住宅機能更新事業計画（2010年3月）』が、西郡への更地化計画であると全面的に暴いた。そして応能応益家賃制度導入後の今日の西郡の現実を詳しく明らかにし徹底的に弾劾した。1・30判決は何の反論もなくこの事実を認めている。

しかし、更地化計画策定が、応能応益家賃の条例制定から「10年以上経っている」と言う、理由にもならない理由でその結びつきを否定し、応能応益家賃制度に問題はないとして、供託者への住宅明け渡し請求を正当化している。

だが、事実は全く逆だ。西郡住宅闘争が、10年どころか、17年間にもわたって闘いぬかれているからこそ、応能応益家賃制度が、はじめっから住民を追い出し、「更地化」を目的にして導入されたことが、白日の下に暴き出されているのだ。

正義は私たちにある。不正義は、八尾市だ。国や八尾市の、大企業への売り渡しのための住宅追い出しの目論見は完全に暴かれたのだ。

(3) 不正義の住宅追い出しの強制執行、年金・預貯金の差押えをするな！私たちは許さないぞ！

生きるための闘いに総決起し、八尾北医療センターへの倒産・廃院攻撃、労働者職員の全員解雇・非正規化による労働組合つぶし・団結破壊攻撃を必ず粉砕する！応能応益家賃制度導入による住宅追い出し、更地化・廃村攻撃など、絶対に許さない。生きる糧である年金・預貯金の差押えを許さない。必ず粉砕する！

この闘いは、全国の労働者の「生きさせろ！」の闘いだ。非正規職撤廃の闘いと一体の闘いだ。全国の労働者は、住宅闘争を労働組合の課題としてとらえ、全国で闘いが始まっている。

私たちは、全国の労働者の怒りと結びつき、住宅追い出し・更地化攻撃と闘いぬき、必ず粉砕する。

再度、強く申し入れる。八尾市は、住宅の追い出しの強制執行や年金・預貯金の差押えなど絶対にやるな！

以上